

会議結果報告書

平成30年10月1日

会議の名称	平成30年度第3回志木市健康づくり市民推進協議会
開催日時	平成30年9月27日(木) 午後1時30分～3時30分
開催場所	志木市役所 3階 301・302会議室
出席委員	山下和彦会長、小山博久副会長、鎌田昌和委員、渡部日恵委員、谷合弘行委員、日東明子委員、前野房子委員、荒野壽子委員、金敷禎子委員、原田由美子委員、齋地満委員、小松順子委員、濱田好江委員、西和江委員、田代健委員、飯田順一委員 (計 16人)
欠席委員	谷岡正吉委員、星野賢委員、小松喜六委員、村田敬吾委員、大熊啓太委員、滝沢麻子委員、 (計 6人)
説明員職氏名	清水健康政策課副課長、金澤健康増進センター所長、飯塚奈巳健康増進センター主査 (計 3人)
議題	(1) 志木市いろは健康21プラン(第4期)の素案について (2) (仮称)市民のこころと命を守るほっとプランの素案について
結果	別紙、審議内容の記録のとおり (傍聴者 0人)
事務局職員	豊島俊二(健康福祉部次長)、今野美香(健康福祉部参事兼健康政策課長)、清水裕子(健康政策課副課長)、志田真由美(健康政策課主幹)、伴恭臣(健康政策課)、貫井なおみ(健康政策課)金澤嘉子(健康増進センター所長)、杉田明子(健康増進センター主幹)、飯塚奈巳(健康増進センター)、古瀬友理(健康増進センター)

審議内容の記録（審議経過、結論等）

1 開 会

2 議 題

（1）志木市いろは健康21プラン（第4期）の素案について

業者より「志木市いろは健康21プラン（第4期）の素案」に基づき、内容の説明を行った。

委員長：素案について気になった点は次の通りである。

○「基本理念」のキャッチフレーズは重要なので、委員の皆さんからキーワードだけでも募りたい。

○「基本目標3」の文章に「共助」とあるが、最近の傾向を踏まえると、「互助」という文言の方が適切ではないか。

○埼玉県健康寿命の考え方は、65歳に達したタイミングから要介護2以上になるまでの期間を指すため、75歳以上のライフステージに対する視点も必要なのではないか。高齢者として一括りにまとめるのではなく、前期高齢者、後期高齢者という分け方や、シルバー、ゴールド、プラチナなどの3種類に分類する方法も考えられる。

○後期高齢者の割合、要介護の認定率などもグラフで示していただきたい。

○「(仮称)リスク者歯科検診」の事業概要において、「データをとる」という文言を追記してはどうか。

○歯科医師会としても目玉となるような取組を盛り込めると良いのではないか。

○「市民の行動目標一覧」におけるライフステージの高齢期が前期と後期とに分けて表記すると良いのではないか。

○高齢化率の説明は、「前期高齢者と後期高齢者の和」よりも「65歳以上の割合」と表記すれば良い。

○「町全体」は「地区全体」と表記した方が良い。

委 員：「各地域の状況」をみると、郵便番号順になっているが、この順番で良いのか。また、志木市の健康寿命の順位はなぜ落ちてしまったのか。なぜ他市町村は上がったのか。

事務局：確かに順位は落ちているが、健康寿命自体は上がってきている。ここ最近の他市町村の伸び率が高いため、順位が落ちている。市としては、要

介護2以上にならないためにはどうすれば良いのか、ということが重要だと考えている。今後、要介護認定率を上げないようにする取組が必要である。

委員長：認知症、歩行機能の低下、関節疾患などの対策が志木市の課題だろう。今回の計画では、「子ども」に対する取組を厚くしたことが新しい視点である。専門的な知見や技術をもった方々の協力を得られ、検証できる計画になれば良いと思う。

(2) (仮称) 市民のこころと命を守るほっとプランの素案について

業者より (仮称) 市民のこころと命を守るほっとプランの素案 (作成中) に基づき、内容の説明を行った。

委員：住民への普及啓発について、私たちの団体からは協力内容を FAX で送ることができなかったが、健康増進センターにはお世話になっているので、団体の活動として自殺対策を謳っていなくても、会員同士の関係を密にして、気になる人を見かけた時には普及啓発を心掛けていきたいと考えている。できることがあれば協力したい。

委員長：現在、計画のタイトル (市民のこころと命を守るほっとプラン) が「仮称」となっている。これまでも提示してきているので、このタイミングで内容を承認いただけないか。

委員：(承認)

委員長：それでは「仮称」を外し、名称は「市民のこころと命を守るほっとプラン」で決定とする。内容として気になった点は次の通りである。

○LGBT、ダブルケア (介護して子育て)、ひきこもりの子ども、認知症の子どもなど、昨今、話題になっている内容を盛り込めると良いのではないか。

○基本施策について、普及啓発から一次予防、そしてハイリスク者支援のストーリーで構成されている点は良いと思う。段階に応じて、その達成度合いが把握できるように組み立てた方が良いのではないか。

○施策体系について、「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指す」という文言を、少しポジティブな文言にしてはどうか。

委員：「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指す」というフレーズについて、少し長くてつかみどころがないので、簡単な文言にしてみてもどうか。

委員：「自殺のない社会の実現を目指す」と簡潔に示してみてもどうか。

委員長：「何かあった時に、早目に相談して欲しい」という趣旨が伝わるようなフレーズだと良いのではないか。高齢者であれば介護の問題、若年層であればうつ病などを包含したフレーズになると思う。次回の会議で2～3案示していただきたい。

(3) その他

事務局：次回の会議は10月18日（木）を予定している。

以上